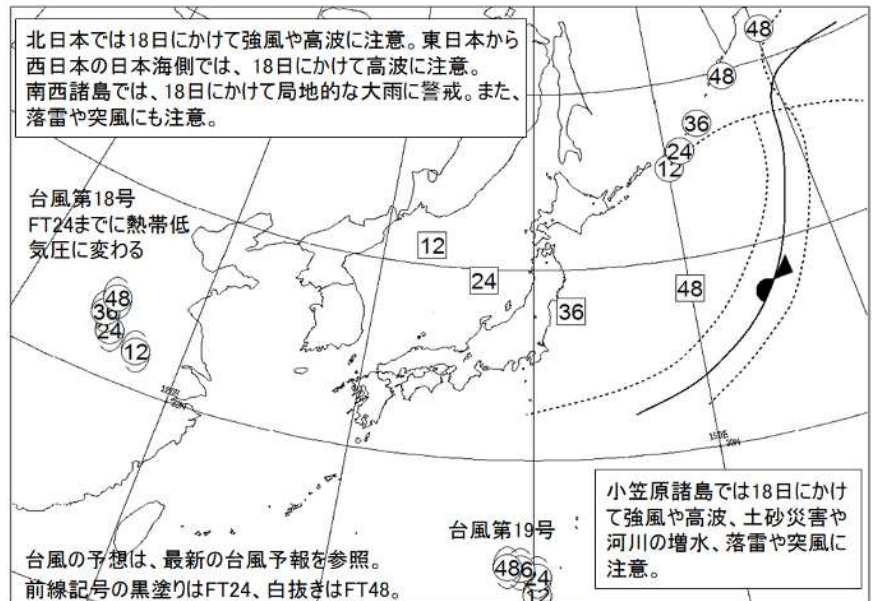


1. 実況上の着目点

①北日本から東日本にかけての500hPa5640～5760mには、300hPa-33℃以下の寒気を伴ったトラフがあって、北東進。トラフの東には発達した低気圧があり、前線を伴って北東に進んでいる。低気圧からのびる寒冷前線が、日本の東から西日本の太平洋側に達している。低気圧の影響で北海道地方の太平洋側では強い風が吹いて波が高くなっている。また、北日本から西日本の日本海側でも波が高くなっている。

② 台風第18号は華中において、17日12時の解析では中心気圧985hPa、最大風速45ktの勢力で西北西進。台風の東側にあたる南西諸島や九州の西海上は、うねりを伴って波が高い。また、南西諸島では南から暖湿気が流入し、局地的に雷を伴った猛烈な雨を解析。

③ 台風第19号は小笠原近海において、17日12時の解析では中心気圧990hPa、最大風速50ktの勢力で北北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の低気圧は千島近海を北東進。北海道地方の太平洋側では18日にかけて風が強くなり、波が高い。強風や高波に注意。また、17日の北日本から西日本の日本海側では、日本海北部からのうねりの影響で波が高い。高波に注意。18日にかけて北日本から西日本では、日本海に中心を持つ高気圧に覆われて晴れる所が多い。

② 台風第18号は中国大陸を北西に進み、18日朝までには熱帯低気圧に変わる。台風の東側にあたる東シナ海では、南から下層暖湿気が流入して対流雲が発達しやすい場が続く。そのため、先島諸島を中心に18日にかけて局地的な大雨に注意・警戒し、落雷や突風、短時間強雨に注意。

③ 台風第19号が近づく小笠原諸島では、18日にかけて次第に風が強くなり、海はうねりを伴って波が高くなり、しけとなる。また、台風の雨雲によって、雷を伴った激しい雨が降るおそれがある。強風やうねりを伴った高波、土砂災害や河川の増水、落雷や突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新GSMを基本とする。量予想等はMSMも参考とする。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

① 大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：沖縄200mm。

② 波浪(明日まで)：小笠原諸島5、北陸4、北海道・東北・伊豆諸島・近畿・中国・九州北部3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。